

校務DX計画

和水町では、GIGAスクール構想に基づき、令和元年度からICT環境の整備を進めてきた。しかしながら、学校現場では業務の複雑化や教職員の負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や教職員の負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めていく。

1 現状と課題

（1）現状

1人1台端末の導入等に伴い、学校では校務の情報化とともに校内におけるペーパーレス化を意識しながら、コミュニケーションツール、アンケート作成ツール、教職員用グループウェア等を活用し、職員会議や、学年・学校全体に関する教職員同士の情報共有やアンケートを実施している。また、学校間や教育委員会との情報共有や連絡においても活用している。

教育活動においても、オンラインによる校内集会や教育支援センターに通所する児童生徒へのオンライン配信、ICTの活用による授業改善、家庭学習におけるタブレット端末の活用などに取り組んでいる。職員のサービス管理には、熊本県が作成した校務支援システムを活用しているが、令和4年度には、校務の効率化を図るために校務支援システムを導入するとともに、教職員用グループウェアによる勤退管理も導入し、各学校における業務の省力化を進めてきた。

教育委員会では、ICT支援員による学校支援を通じて、教職員のICT活用に関する知識・理解やスキルの向上に努めるとともに、文書提出や押印等の見直しにも取り組んでいる。

（2）課題

各学校独自の取組や町内学校全体での取組を進める中で、FAXの利用や押印など、デジタル化や校務支援システムへの名簿情報の手入力作業など、一掃を検討する必要がある入力作業等が残存している。

また、校内におけるサーバー内の情報の保管・整理、クラウドの利活用が十分ではなく、生かされていない状況がある。ネットワーク利用に関する教職員の理解の深化やICT活用スキルの向上、校務の効率化などに関して学校間・教職員間で差がみられる。

2 今後について

（1）押印・FAXの原則廃止に向けて

依然、すべての学校で押印が必要な書類がある状況であることを踏まえ、法令等により押印が必須となっていないものについては、教育委員会において、押印廃止に向け取り組んでいく。また、FAXでのやり取りについても、FAX以外でのやり取りが困難な場合を除き、メールや共有フォルダ等への転換を図り、原則廃止に向けて取り組んでいく。

(2) 校務の効率化に向けて

これまでに導入した校務支援システムや教職員用グループウェア、授業支援や学習支援ツール等の活用に関する研修会を引き続き定期的を開催し、目的に応じてクラウドツールを有効活用する意識の向上や日常的な活用を推進する。これにより、校務支援システムへの名簿情報の手入力作業を一掃するなどの業務の省力化、授業等の教育活動における有効的なICT活用をさらに推進する。

(3) 次世代の校務支援システムの導入に向けて

次期校務支援システムの更新に向け、県の共同調達事業説明会等へ参加し、導入に向けた具体的な検討を進めていく。

[次世代の校務システムの定義]参照：次世代の校務DXガイドブック

- ・ 強固なアクセス制御による対策の実施
- ・ ネットワーク統合（校務系システム・学習系システム）
- ・ クラウド型校務支援システムの整備
- ・ データの可視化・利活用を行うための機能の整備

(4) 生成AIの校務活用に向けて

情報教育セキュリティポリシーに基づき、研修実施後、以下の活用に向けた検討を進めていく。

- ・ 著作権に関する研修、児童生徒への生成AIの使い方に関する指導等、校内研修の機会を設ける。
- ・ テキスト生成AI（学校だよりのサンプル作成、所見記入欄へのサンプル作成等）
- ・ 画像生成AI（行事のしおり等でサンプルを作成、ホームページに使用する画像の作成等）

(5) ICT支援員の有意義な活用に向けて

ICT支援員による支援の充実を図り、学校間・教職員間の格差解消、クラウドツールの活用等による好事例等の情報収集と情報提供等の取り組みをより積極的に推進していく。